

1 井野公民館の概要

中国山地の支脈が起伏する山間に 17 集落が点在し、約 390 世帯 940 名 高齢化率 46% の地域。小学生は本校 17 名分校 9 名、中学生 20 名は町内 1 校の中学校へスクールバス通学をしており、少子高齢化の顕著な場所である。

2 事業の概要

(1) はじめに

①実証事業名 「山菜は井野の宝です！」～催合って育む地域力～

②実証事業のテーマ

身近な「山菜」をみんなで『井野の宝』へ育て、
人がふれあう自慢のふるさとづくりをすすめる。
～10年間続いている「山菜セミナー」に向けた取組の拡充～

③実証事業のねらい

超少子高齢化により山菜セミナーの運営が危ぶまれてくるなか、セミナーを継続するために、山菜の生育環境保全や運営スタッフの拡充を図りながら交流人口を増やし、地域住民のふれあいを大切にした心豊かなふるさとづくりをすすめる。

(2) 具体的な取組

①地域全体への意識付けのために

ア 野山岳ハイキング

春に実施する山菜セミナーでの山菜採りコースのハイキングを参加者 40 名で、秋に実施した。子ども達は大人が歩きながら話す昔の様子を聞いていたり、途中目についた野イチゴを採ったりするのにも、種類や美味しそうなのを見分け方など話ながら、大人も子どもも一緒に楽しむ中に、それと気づかず継承されていくことがあるのを感じられた。頂上でスケッチをしたり俳句をよんだりして、山菜コースのシンボルとしての野山岳を意識してもらおうよう行った。



イ 米粉のおやつ作り教室

普段、親と子ども世代の公民館利用者は少なく、まず公民館という場所に親しんでもらい、足を運びやすくする為にファミリーサークル（3歳～中学生とその保護者対象グループ）を中心に、米粉のおやつ作り教室を計画し、公民館行事参加への雰囲気作りから入ることとした。15名の親子の参加があった。このサークルが公民館の調理室を利用する活動は初めてで、「親子で調理しやすいスペースがあり良かった」との保護者からの感想も聞け、次回の活動への呼びかけが出来た。



ウ 実証！「地域力」醸成プログラムの紹介

井野公民館が取り組んでいる実証！「地域力」醸成プログラムの活動状況を、地域の人が集るふるさと芸能まつりで掲示物による紹介をした。

②「井野の宝物」山菜が育つ環境を守り育むために

ア アピール看板の作成

「井野の宝」として山菜を意識するように看板作りを行っている。公民館周辺にある木の切り出し作業、板削り、デザイン考案、ペンキ塗り等の作業を地域の人々の協力により進めている。公民館での作業だけでなく、資材を自宅に持ち帰り文字の切り抜きを行ったり、山菜を描いたりそれぞれのペースで協力を得て看板が完成に近づいている。年度末ぎりぎりには設置でき、次年度の春の山菜セミナーにはアピールできる予定。



イ 広場の造成

公民館近くでも山菜が手に入り、セミナーで利用する野菜栽培ができ、誰でも集え花が咲く癒しの広場 ミニ農園の造成に着手。公民館前には、この計画から立ち上がったガーデニング教室生の協力により花壇が完成した。昨年の秋、種蒔きから行い育てた草花の苗を花壇に移植し終え、春の山菜セミナーには開花してくれることを祈っている。



3 事業の成果と課題

- (1) 地域全体への意識付けをしていく為に行ったハイキングは、参加者に楽しんでもらう中で子ども達への継承活動も含まれ、地域の環境保全への意識なども自然な会話の中に問題提起をすることができた。学校の振替休業日に実施することにより教員にも参加者があったが、働き盛りの親世代は勤務日となり参加が難しくなった。親子でのおやつ作りは、米の生産地としてお米について見直すきっかけ作りもかねて土曜日開催としたが、子ども達の参加に比べ親世代の参加者がやはり少なく、親世代の参加要請に工夫の必要性を感じた。また、ふるさと芸能まつりに併せて公民館の活動展示の場所で実証！「地域力」醸成プログラムの取組について掲示し多くの来場者に周知を図れた。
- (2) 「井野の宝物」山菜が育つ環境を守り育むための取組は、出来る人が、出来る時に、出来ることをとて無理せず少しずつ前進を目指して実施してきた作業を通し、公民館に集う人のなかに新たな顔ぶれも少数ながら見られており、参加には至っていないが地域の引きこもりがちの人へ出来る時に出来ることでいいからと参加の声かけで接触をもつ機会が増えた。活動を通じて、春の山菜セミナーへの建設的な発言が参加者の会話の中から聞かれた事は、来年度への活動につながる成果だと思えた。野山岳の整備については、地元自治会活動と協力しながら進める話も持たれた。また、館を離れた場所での自然体験活動、山頂での事業を加えていくには活動時間の設定・公衆トイレ等の配慮等について課題もみえた。

4 今後の方向性

各集落単位で行われている事業には、計画段階から子ども達が住民として参画しているものもあることを考えると、春の山菜セミナーは年度変りに行う催事ではあるが、学校との連携を図り子ども達が学校ぐるみで参画できる事業に発展させていける可能性がないか、学校への働きかけを図り、自治会や各種団体との協力体制も強めながら地域力の醸成に努めていく。